



在日米軍・海兵隊の 意義及び役割



防衛省

1.我が国周辺の安全保障環境

質問 我が国周辺の安全保障環境について教えてください。

- ◎ 我が国周辺の安全保障環境は、不透明・不確実であり、北朝鮮の核・ミサイル問題、中国の軍事力の近代化や活動の活発化など厳しさを増している状況です。



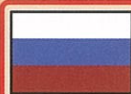
■ アジア太平洋地域における主な兵力の状況

質問 我が国周辺の軍事力の状況について教えてください。

- ◎ アジア太平洋地域は、世界でもまれにみる軍事力が濃密に集中した地域であり、核兵器を含む大規模な軍事力が我が国周辺に存在しています。



中国軍戦闘機J-10



極東ロシア軍



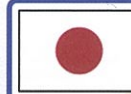
ロシア軍機Tu-160が日本海周辺で初めて視認(2010.6)



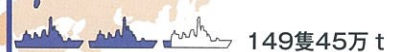
中国軍DF-31大陸間弾道ミサイル



北朝鮮軍

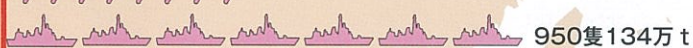


日本（自衛隊）



中国軍

中国軍キロ級潜水艦



中国軍ソブレンヌイ級駆逐艦



中国軍機Y-8(2010.3)



中国軍ハン級原子力潜水艦

世界主要国兵力ランキング

順位	陸上兵力	航空兵力
1	中国 (160万人)	米国 (3,738機)
2	インド (113万人)	ロシア (2,160機)
3	北朝鮮 (100万人)	中国 (1,946機)
4	米国 (66万人)	インド (673機)
5	韓国 (56万人)	北朝鮮 (620機)
—	日本 (14万人)	日本 (430機)

■ 安全保障環境—北朝鮮の動向—

質問 北朝鮮の軍事動向について教えてください。

- ◎ 北朝鮮の軍事動向は、我が国の安全に対する重大な脅威です。
- ◎ さらに2度の核実験実施を発表しているほか、我が国上空を飛び越える弾道ミサイルを発射しています。
- ◎ また、2010年3月には、韓国の哨戒艦が魚雷攻撃により沈没、同11月には延坪(ヨンピョン)島砲撃事件が発生しています。

▶ 核実験の実施

北朝鮮は、2006年に最初の核実験の実施を発表しました。国際的な非難にもかかわらず、2009年5月には、**2度目の核実験の実施を発表し、核兵器計画をさらに進展させた可能性**が十分にあります。

▶ ミサイル発射事案

2006年7月には計6発、2009年7月には計7発の弾道ミサイルが北朝鮮の東岸から日本海に発射されました。また、1998年8月及び2009年4月に発射されたミサイルは**我が国上空を飛び越えて太平洋に落下**したと推定されています。



射程約6000kmとみられているテポドン2又はその派生型を利用したとみられる発射(2009.4)



▶ 韓国哨戒艦沈没事件と延坪島砲撃事件

2010年3月26日、韓国海軍の哨戒艦「天安」が韓国北方限界線付近の黄海において沈没しました。調査の結果、**北朝鮮小型潜水艇から発射された魚雷により沈没**したと公表されています。

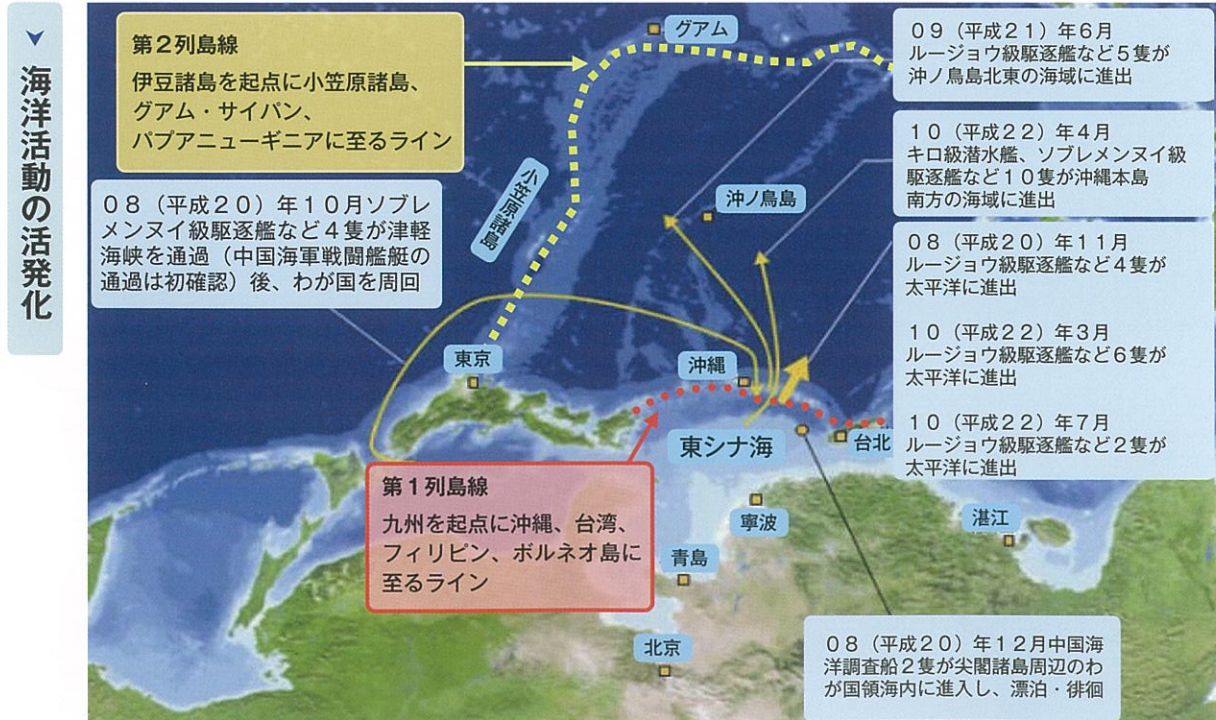
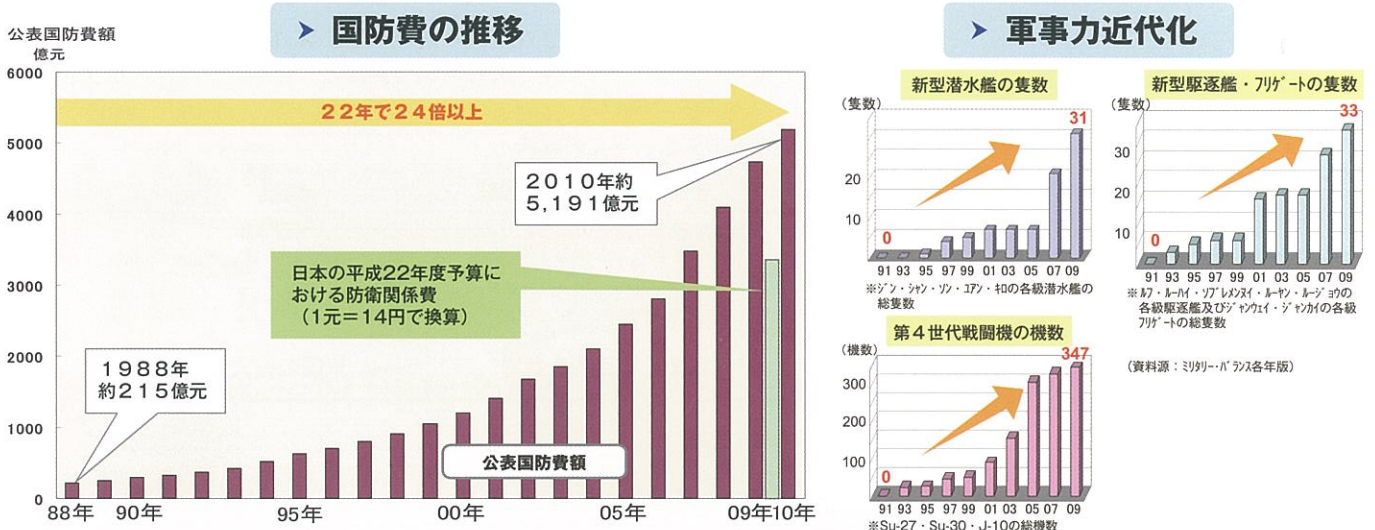
また、11月23日には同じく黄海に面した北方限界線付近の延坪島に向けて北朝鮮軍が百発以上の砲撃を行い、民間人を含む死傷者がでました。



■ 安全保障環境—中国の動向—

質問 中国の軍事動向について教えてください。

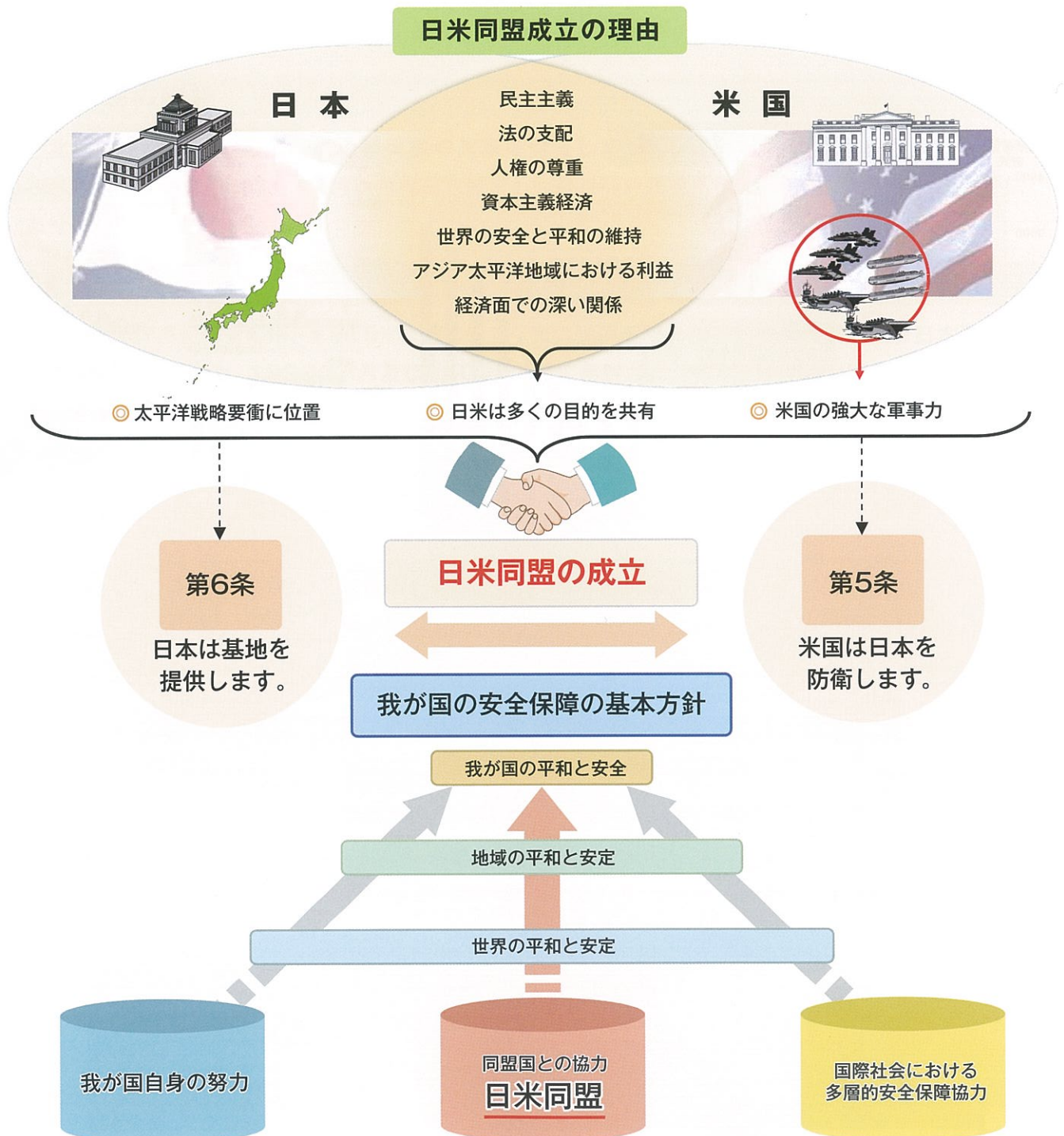
- ◎ 中国の国防政策の不透明性や軍事力の動向は、我が国を含む地域、国際社会にとっての懸念事項です。
- ◎ 中国の公表国防費は過去22年間で24倍以上に伸びており、新型の潜水艦、駆逐艦、戦闘機などを質量ともに急速かつ大幅に向上させてきています。
- ◎ また、近年、我が国周辺海域を含む海洋における活動を活発化させています。



2. 日米同盟の意義と役割

質問 何故、日本は米国と同盟関係にあるのですか？

- ◎ 日本と米国は多くの目的や価値観を共有し、また、米国は強大な軍事力を保有しています。
- ◎ このような米国と同盟関係を結び、その抑止力を活用することにより、日本は我が国の安全を確保しています。



質問 我が国だけでは安全は確保できませんか？

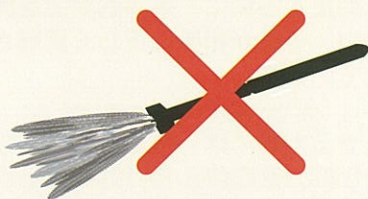
- ◎ 我が国周辺の安全保障環境を考えれば、自らの防衛力のみで、自国の安全が脅かされるようなあらゆる事態に対処するのは現実的ではありません。
- ◎ 我が国は、憲法の下、専守防衛を基本として適切な防衛力の整備に努めるとともに、日米安保条約を堅持し、その抑止力の下で、我が国の安全を確保することが必要であると考えています。
- ◎ 我が国の地勢的な特徴を考えれば、我が国の安全確保は容易ではありません。
 - 長大な海岸線と多くの島嶼^{とうしょ}を有しています。
 - 狭い国土に多数の人口が集中しています。
 - 都市部に産業・人口が集中しています。
 - 重要施設が沿岸部に多数存在しています。
- ◎ 仮に一国のみで我が国の安全を確保しようとした場合、防衛力を大幅に増強しなければなりません。
- ◎ 防衛力を大幅に増強すると、周辺の国に懸念を与えかねません。

—専守防衛とは—

相手から武力攻撃を受けたときにはじめて防衛力を行使し、その態様も自衛のための必要最小限にとどめ、また、保持する防衛力も自衛のための必要最小限に限るなど、憲法の本質にのっとった受動的な防衛戦略の姿勢をいい、我が国の防衛の基本的な方針となっています。

—自衛のための必要最小限度の範囲を超える兵器—

性能上専ら相手国の国土の壊滅的破壊のためにのみ用いられるいわゆる攻撃的兵器、例えば、大陸間弾道ミサイル(ICBM)、長距離戦略爆撃機あるいは攻撃型空母が該当します。



大陸間弾道ミサイル(ICBM)



長距離戦略爆撃機



攻撃型空母

3. 在日米軍の意義と役割

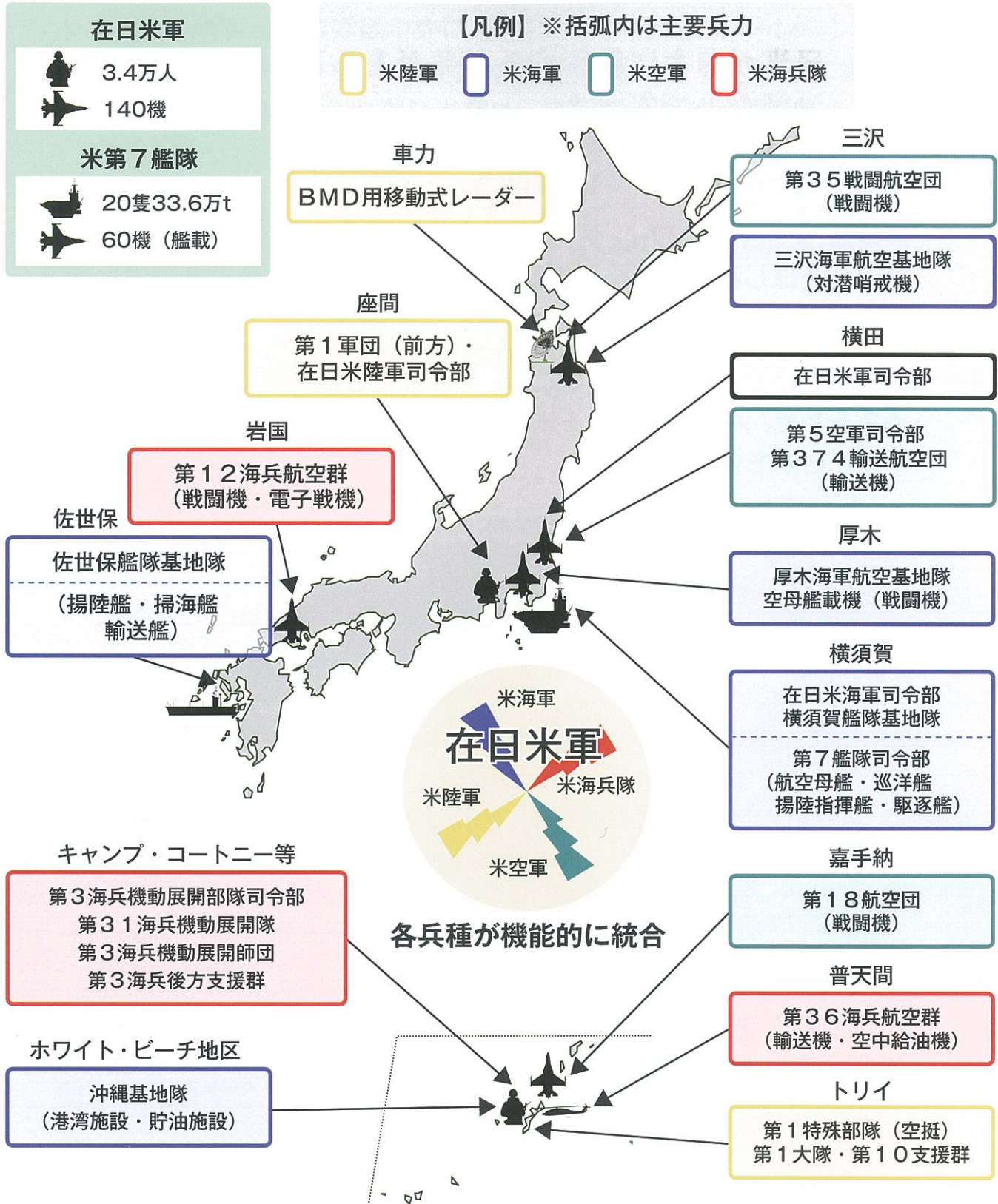
質問

日米同盟が必要であるにしても、何故、米軍は日本に駐留する必要があるのですか？

- ◎ 我が国を防衛するという米国の明確な意思を表示するためです。
- ◎ 日米同盟の抑止力を担保するためです。
- ◎ 我が国を共同で防衛するにあたって、自衛隊は「盾」として機能する一方、在日米軍を含む米軍は「矛」として機能することが期待されます。
- ◎ 米本土などからの来援兵力の受入基盤になります。



■ 在日米軍等の日本における主な配置図



◎ 沖縄の海兵隊を含む在日米軍は、我が国の安全のみならず、アジア太平洋地域の平和と安定のために、極めて重要な役割を果たしています。

4. 沖縄の地政学的位置

質問 米軍が日本に駐留する必要があるとしても、何故、沖縄なのですか？

1. 潜在的紛争地域との位置関係

- ◎ 沖縄は、米本土やハワイ、グアムなどに比べて、我が国の平和と安全にも影響を及ぼし得る朝鮮半島や台湾海峡といった潜在的紛争地域に近い(近すぎない)位置にあります。
- ◎ 我が国周辺で、万一紛争が起こり、沖縄を含む我が国に波及するおそれがあるとき、沖縄に駐留する米軍は、緊急に展開して迅速に事態に対応することができます。

朝鮮半島や台湾海峡といった潜在的な紛争地域に迅速に到達可能

距離的近接性による対応の迅速性確保は軍事上極めて重要となります。

潜在的紛争地域と一定の距離

- どこへでも迅速に部隊派遣が可能
- いたずらに軍事的緊張を高めない
- 部隊防護上、近すぎないことが重要

沖縄-ソウル
距離：1,260km
船舶：約34時間(20kt)
航空機：約1時間(600kt)
約5時間(120kt)

沖縄-台北
距離：約630km
船舶：約17時間(20kt)
航空機：約30分(600kt)
約2.5時間(120kt)

グアム-ソウル
距離：約3,220km
船舶：約87時間(20kt)
航空機：約3時間(600kt)
約15時間(120kt)

グアム-台北
距離：約2,760km
船舶：約75時間(20kt)
航空機：約2.5時間(600kt)
約12.5時間(120kt)

※距離は全て直線距離
※航空機の600ktは戦闘機、120ktはヘリを想定した速度
※船舶の20ktは揚陸艦船の運用速度

- 紛争発生など緊急事態におけるわずかな遅れも、相手国に十分な攻撃・防御の余裕を与える一方、味方は作戦準備から部隊運用に至るまで後手にまわることとなり、軍事作戦上、致命的な遅延と考えられます。
- 我が国周辺における緊急事態での対応が遅れた場合、紛争発生地域に所在する我が国の国民の退避活動も遅れることとなり、遅れば遅れるほど国民の生命を危険にさらすこととなってしまいます。

2. 沖縄の戦略的位置

- ◎ 沖縄は、南西諸島のほぼ中央にあることや我が国のシーレーンにも近いなど、安全保障上、極めて重要な位置にあります。沖縄に駐留する自衛隊や海兵隊を含む在日米軍は、こうした戦略的要衝にある沖縄を守るという、国防上の重要な役割を担っています。
- ◎ 他方、周辺国からみると、沖縄は大陸から太平洋へアクセスするにせよ、太平洋から大陸へのアクセスを拒否するにせよ、戦略的に重要な目標となります。
- ◎ こうした位置にある沖縄に軍事的なプレゼンスを示すことは、周辺国が沖縄にうかつに手出しできないこととなり、沖縄を含めた我が国の安全保障上、大きな意義があります。

